

2015 年度

白梅学園大学地域交流研究センタープロジェクト報告

保育科 瀧口 優

はじめに

白梅学園大学附属地域交流研究センタープロジェクト（以下「研究プロジェクト」）は2009年度に附属幼稚園の建替えに伴い、地域交流を研究的にすすめることをめざして設立された。プロジェクトのテーマは「遊びと学びのコラボレーションによる地域交流活性化システムづくりに関する研究—大学附属幼稚園を拠点として—」である。

研究を進めるにあたって5つのプロジェクトを立ち上げ、完成年度にはそれらのプロジェクトを統合した地域交流のシステムづくりを目標としてきた。2014年度に3つのプロジェクトに整理して2年目を終えたところであり、プロジェクトは以下の通りである。

①総合的な地域交流プロジェクト(瀧口 優 代表)

子育て広場及び小平西地区地域ネットワーク（西ネット）と連携して、広場の開催や西ネットでの地域の取り組み、更には世代間交流のコーディネーター講座（8月15名）を行い、コーディネーターの養成を行った。

9月には小平市障害福祉センターが行う「障害者まつり」にボランティアとして学生を参加させ、10月には小平第十三小地区防災訓練（小平特別支援学校）にも主催者として参加し、更に小平第十三小学校、小平第一小学校などの青少対まつりにも学生が参加している。子育て広場と連携して上宿保育所父母の会と協力して子ども祭りにも参加してきた。

②障がいのある子もない子もワークショップ実践的研究(杉山 貴洋 代表)

2015年度の「だれでもワークショッププロジェクト」は、前年度と同様に、造形ワークショップと

演劇ワークショップを実践した。

未就学の障がいのある子どもを対象とした造形ワークショップは、年間13回実施され、参加した子どもは18名であった。今年度のワークショップは、伝説のレジェンド工作「ドーレ・パットレツパ」を探す旅をするという設定で、子どもたちと学生が、探検隊ごっこをしながら、13個の工作を完成させると「ドーレ・パットレツパ」の扉が開くという仕掛けで実施された。最終回には、学生から子どもたちに向けて、温かいメッセージが届けられた。

また、障がいのある子もない子も参加できる演劇ワークショップは、夏休みと春休みに開催され、夏のワークショップの参加は18名、春のワークショップは、33名となった。夏のワークショップは「スターダストファンタジー・ほしぞらを取りもどせ!」というタイトルで、ファンタジー村の記念日に壊された「大きな星」を意地悪魔女から取り戻すストーリーである。全編、手話を取り入れたボディランゲージでワークショップが実施された。また、春のワークショップは「マジカルファンタジーツアー・まほうのせかいへようこそ!」というタイトルであった。架空の旅行会社FGカンパニーのツアーで出会った魔女たちが、何者かに閉じ込められ、子どもたちの魔法で助けるというストーリーで、ファンタジーツアーで遊んだ痕跡が、魔法によって変化していく設定は、不思議な非日常体験となった。

「だれでもワークショッププロジェクト」は、このような定期的なワークショップの実践を通じて、地域連携の場の形成を模索している。

③食育でつなぐ地域と大学教育「おいしいお部屋プロジェクト」(林 薫代表)

2015年度の「おいしいお部屋プロジェクト」では、林ゼミナールの学生が中心となって、子どもを対象とした食育ワークショップを企画・進行了した。ワークショップは全6回で構成し、2月には白梅子ども学会にて2日間、成果を展示発表し、多くの子どもとその保護者が来訪した。学生たちは、ワークショップを通して、子どもたちや保護者、保育者たちとかけがえのない時を共有する事ができた。4月からは、新しい職場で保育者・教育者として力を発揮している。また本研究の実践活動は「第9回キッズデザイン賞 子どもの産み育て支援部門」を受賞した。

1年間を振り返って

各プロジェクトはそれぞれのテーマと目標に沿って取り組みをすすめてきたが、公開研究会などの開催には至っていない。地域交流研究センターの運営委員会は年間4回ほど開催したが、地域の問題を集約して整理するという基本的な資料作りには至っていない。前年度のように年度末にまとめを含めた公開研究会を開催することができなかった。

一方では、地域からの大学へのアプローチが多くなり、大学として窓口を一本化する等の対応が必要になってきている。

- ・小平市国際交流協会 (KIFA) 評議員 (文化スポーツ課)
- ・小平市大学連携協議会 (ブルーベリーリーグ) (市民協働男女共同参画課)
- ・コミュニティバスを走らせる会 (公共交通課)

地域交流研究センターのこれから

地域交流の「地域」をどのようにとらえるのか、研究センターとして常に問われる課題である。この間の取り組みを通して地域を4つの種類に分けた。まずは地球規模で考えた時には「地域」が「国」等を表すこともある。次のレベルとして都道府県単位で、白梅の場合は「東京都」が「地域」と呼ばれることもある。更に市町村等の地方自治体が

次のレベルとして考えられ、最後に居住地を中心とした「地域」があり、地域交流研究センターは、こうした「居住地を中心」とした「地域」との関わりを追究することになる。

2016年度より、子育て広場と小平西地区地域ネットワークが地域交流研究センターの中に位置付けられた。地域に関わる課題はすべてこの交流センターで対応していくことになり、地域との関係もより親密なものになっていくと思われる。だからこそセンターとして様々な情報を取り入れつつ、常に整理して発信していくことが求められる。

また多くの教職員が地域への関わりを持っており、それらの力を地域交流全体に広げていくことが必要になってきている。

(文責 瀧口 優)